

# GRASP-Japan カフジ活動報告

2008年12月25日 山極寿一

## 事業計画

「カフジ・ビエガ国立公園における地元住民による類人猿保全活動と環境教育への援助」

カフジ・ビエガ国立公園では1993年に地元住民によるNGOポレポレ基金が設立されて以来、われわれ日本人研究者とコンゴ人研究者の協力の下にゴリラやチンパンジーと人との共存を目指した活動が続けられてきた。活動の主体は、住民自身の手によるゴリラとチンパンジーの遊動と類人猿の食物となる果実のフェノロジーのモニタリング、および就学前の幼児から大人までを対象とした環境教育学級の経営である。地元住民が類人猿の生態調査に参加することで類人猿への関心を高め、それを地元の財産として管理する。そして、類人猿の動向や環境の変化を環境教育学級で毎月報告して、他地域の類人猿や他の動物などと比較することによって地元の自然の価値を再認識することを目指している。すでに、3つの環境教育学級が作られ、地元の多くの子どもたちや親たちが参加して活発に活動している。

本事業はこれらの活動を支援するため、ビデオ撮影機とプロジェクターを購入し、住民自らが撮影した映像を作成するとともに、環境学級に図書を完備して類人猿やアフリカの自然や人々に関する知識を高めることを目的とする。



建設中の環境教育学級



公園内をパトロールする公園スタッフと地元の調査員

#### 2008 年の活動

2007 年に 100 万円の援助を受けてゴリラとチンパンジーの遊動と食性、果実のフェノロジーのモニタリング調査体制を確立し、今年度も引き続きその調査を継続してきた。調査に携わっている 12 人の調査員に 8 ヶ月分の給料を支払った。現地の人々が調査員として参加することでゴリラとチンパンジーの保護意識を高める効果があり、調査を通じて地元に関心が高まっている。今回、中古のビデオ撮影機を寄付し、またプロジェクターを購入して、現地の調査員によってゴリラやチンパンジーの行動を撮影して見る事が可能になった。今年には日本のテレビ会社がカフジでゴリラの生態や現地の保護活動を撮影し放映しているの、そのフィルムを譲り受けている。現地でそういった映像を通して環境教育を開始した。今年には新たに環境教育のクラスを増やし、現在は地元で 6 つのクラスを開講しており、そこで就学前の幼児から高校生まで 1,012 人の子どもたちが学んでいる。この活動は近隣の村で評判になっており、すでに自然保護の仕事に将来従事したいという子どもたちが増えている。今回はここで働く 17 人のスタッフに 4 か月分の給料を支払った。今年には図書を購入する予定であったが、まだ実現していない。次年度に環境教育の教材を充実させ、映像や図書を用いて地元の自然や類人猿の保全について教育活動を展開したいと考えている。



内戦以後に生まれて育ったヒガシローランドゴリラの子ども

#### カフジ収支報告書

円会計

#	日付	項目	入金	出金	書類	備考
1	2008.7.25	JMC より振込み	900,000			
2	2008.11.2	現金寄付	2,100			
3	2008.11.12	ドルへ換金 (キャッシュ)		602,100	換金明細	ドル#1 へ
4	2008.11.18	ドルへ換金 (キャッシュ)		300,000	換金明細	ドル#2 へ
合計			902,100	902,100		

US ドル会計(単位 \$)

#	日付	項目	入金	出金	書類	備考
1	2008.11.12	円から換金 (キャッシュ)	6,000			円#3 より
2	2008.11.18	円から換金 (T/C)	3,021			円#4 より
合計			9,021	9,021		

支出(単位 \$)

#	日付	項目	支出
1	2008.11.26	プロジェクター購入費	1,450
2	2008.11.26	ガソリン代 (モニタリング)	650
3	2008.11.26	人件費 (モニタリング)	2,500
4	2008.11.26	人件費 (環境教育)	2,850
5		次年度繰越金	1,571
合計			9,021